



日建連表彰2022



第63回BCS賞

1. 全景
2. 複合施設と駅舎の間の屋外通路
3. 吹き抜けになった1階キッチンスペース

# 延岡駅周辺整備プロジェクト

## 選定理由

【選考委員】  
中島 肇・安田俊也・松村正人

まちの中心であった駅前には賑わいをとり戻すため、約一〇年にわたって市民・行政・建築家が一体になりプロジェクトを進めてきた。はじめは行政主導で中心市街地全体を俯瞰し、駅前を再整備することで周辺のまちを再生する方向性を検討、同時に市民ワークショップの開催や類似施設の調査などを行いながら駅前複合施設に求められる機能を丁寧に探り、設計者選定後は、主にソフトを考える「駅まち市民ワークショップ」とハードを検討する「駅まち会議」の融合を図りながらできるだけ市民の意見を反映できるような時間をかけて進められてきた。

そのようにして生まれた延岡市駅前複合施設「エンクロス」は、市民から愛着のある既存JR駅舎の柱梁の構造に倣い、柱サイズを合わせた純ラーメン構造で構成されている。二階の活動を可視化するため一階の階高を抑え、居心地のよい低い天井と広さを感じ開放感のあるトップライトや吹き抜けがバランスよく組み合わされている。また、西口の複合施設だけでなく市民の利便性を向上させるため東口ロータリーも整備され、合わせて東西自由通路もつくりかえられた。その自由通路とエンクロスを上手に交差させることで、駅を行き交う人々が自然と活動に触れ、新たな発見や出会いが生まれる工夫がなされている。

エンクロスの運営は、設計段階で実施されたプロポーザルにて指定管理者が選定された。市民ワークショップの意見と指定管理者のノウハウを融合することで、単にBookカフェ、キッズスペースなどの機能を内包させるだけでなく、図書のもつ接着力や広場性を活かし、市民自らイベントを企画し、その活動を

指定管理者がしっかりと支援している。今後、エンクロスを中心に駅前商店街へと活動のスペースを展開させていくということで、地方都市における賑わい創出の新たな取り組みとしても評価が高い。

施工においては、一日二、八〇〇人の乗降客が通過する駅前で、全体で一六の施設、発注者四社、設計者一〇社、施工については三三社がかかわったということで、工事範囲の切り回しや、搬入車両の調整などコミュニケーションよく工事が進められ、第三者災害を防ぎながら質の高い建築がつくりあげられていた。

設計・監理においては、建築家と地元の設計者が一体となって進められてきたのも興味深い。実施設計段階では、東京の建築家の事務所現地設計者が常駐して図面を作成し、施工段階では、事務所の所員が現地に常駐して監理に当たったこと。その後、その担当者は、まちの活動に溶け込んでいき、結果、移住までしてしまったというエピソードを現地調査時に聞いた。そこまで想いを込め、市民と一体となつてつくり上げた作品の今後は、とても楽しみである。

### 延岡駅周辺整備プロジェクト 概要

- 所在地 宮崎県延岡市幸町3-4266-5
- 建築主 延岡市
- 設計者 (有)乾久美子建築設計事務所、延岡設計連合協同組合
- 施工者 上田工業(株)、(株)児玉建設、朋幸産業(株)、(株)久米建設
- 竣工日 2018年3月9日

- 敷地面積 8,878㎡
- 建築面積 1,695㎡
- 延床面積 1,659㎡

- 階数 地上2階
- 構造 鉄筋コンクリート造、プレキャストコンクリート造、一部鉄骨造



詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。